

製品名： ダイヤカラー・C02

1. 化学物質等及び会社情報

製品名： ダイヤカラー・C02
製品コード： KTC0-801
会社名： 東洋紡株式会社
住所： 大阪市北区梅田一丁目13番1号 大阪梅田ツインタワーズ・サウス
担当部門： バイオ事業総括部
(TEL:06-6348-3335, FAX:06-6348-3833)

推奨用途： 体外診断用医薬品

2. 危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響

健康有害性： 誤飲、吸入、皮膚からの吸収により有害である可能性がある。
環境有害性： 分類できない
物理化学的危険性： 分類基準に該当しない

GHS分類

GHS分類	区分
急性毒性(経口)	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(経皮)	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(吸入:気体)	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(吸入:蒸気)	区分に該当しない(区分外)
急性毒性(吸入:粉塵及びミスト)	区分に該当しない(区分外)
皮膚腐食性/刺激性	区分に該当しない(区分外)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分に該当しない(区分外)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2
水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない(区分外)
水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない(区分外)

GHSラベル要素

絵表示：



注意喚起語： 警告
危険有害性情報： 臓器(中枢神経系, 血液系, 腎臓)の障害のおそれ
注意書き：

- 【安全対策】 ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 【応急措置】 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
- 【保管】 施錠して保管すること。
- 【廃棄】 内容物、容器を廃棄する際は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

製品名： ダイヤカラー・C02

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物（水溶液）

成分及び含有量

成分名称	含有量 wt. %	CAS#	化審法	安衛法		化管法	毒劇法
			官報公示 番号	官報公示 番号	通知物質	指定物質	毒物劇物
ホスホエノールピルビン酸	2.0%以下	138-08-9	対象外	対象外	非該当	非該当	非該当
ホスホエノールピルビン酸 カルボキシラーゼ	0.5%以下	9067-77-0	対象外	対象外	非該当	非該当	非該当
リンゴ酸デヒドロゲナーゼ	0.5%以下	9001-64-3	対象外	対象外	非該当	非該当	非該当
緩衝剤	10%以下	-	既存	公表	非該当	非該当	非該当
アジ化ナトリウム	0.1%未満	26628-22-8	1-482	公表	規制濃度 以下	規制濃度 以下	規制濃度 以下
エチレングリコール	10%未満	107-21-1	2-230	公表	該当	非該当	非該当

4. 応急措置

吸入した場合： 直ちに空気の新鮮な場所に移し、毛布等で保温して安静にさせ速やかに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合： 直ちに触れた部分を多量の水で洗浄し、速やかに医師の診断を受ける。

眼に入った場合： 直ちに流水で洗浄し、速やかに医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合： 直ちに多量の微温水又は牛乳を飲ませる。無理に吐かせないで速やかに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

消火剤： 霧状の水、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素などを用いる。

消火を行う者の保護： 大規模な火災の場合は呼吸用保護具を着用する。

製品名： ダイヤカラー・C02

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置：	作業の際は必ず保護具を着用し、眼、皮膚への接触及び吸入に注意する。
環境に対する注意事項：	環境への影響は小さいが、環境中へは廃棄しない。
封じ込め及び 浄化の方法及び機材：	速やかに布・紙で拭き取る。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策：	作業の際は、眼・皮膚・衣服に接触しないように注意する。
安全取扱注意事項：	保護具使用が好ましい。
接触回避：	皮膚、眼や衣服との接触を避ける。
衛生対策：	取扱い後は、手をよく洗う

保管

安全な保管条件：	密封して冷蔵庫または10℃以下の冷暗所で保管する。 禁水試薬とは隔離して保管する。
安全な容器包 装材料：	本製品で使用している容器で保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策： 近くに洗眼・洗浄を行うための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具：	マスクを着用する
手の保護具：	保護手袋（ゴム手袋等）
眼の保護具：	保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具：	保護衣

製品名： ダイヤカラー・C02

9. 物理的及び化学的性質

製品

外観	物理的状态：	液体
	形状：	液体
	色：	無色
	臭い：	無臭
	臭いのしきい（閾）値：	データなし
	融点・凝固点：	データなし
	沸点、初留点 及び沸騰範囲：	約100(°C)
	燃焼性（固体、気体）：	データなし
	燃焼の又は爆発範囲：	データなし
	引火点：	データなし
	自然発火温度：	データなし
	分解温度：	データなし
	pH：	7-9
	粘度：	データなし
	動粘度：	データなし
	溶解度：	水に易溶
	n-オクタノール／水 分配係数：	データなし
	蒸気圧：	データなし
	比重（密度）：	約1.0g/cm ³
	蒸気密度：	データなし
	蒸発速度：	データなし
	粒子特性：	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性：	極めて低い
化学的反応性、化学的安定性：	冷蔵で安定で、反応性はない。
危険有害反応可能性：	特になし
避けるべき条件：	特になし
混触危険物質：	特になし
危険有害な分解生成物：	特になし

製品名： ダイヤカラー・C02

11. 有害性情報

製品 製品に関する情報は必須

急性毒性（経口）：	区分に該当しない（区分外）
急性毒性（経皮）：	区分に該当しない（区分外）
急性毒性（吸入）：	区分に該当しない（区分外）（気体） 区分に該当しない（区分外）（蒸気） 区分に該当しない（区分外）（粉塵・ミスト）
皮膚腐食性／刺激性：	区分に該当しない（区分外）
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	区分に該当しない（区分外）
呼吸器感作性：	分類できない
皮膚感作性：	分類できない
生殖細胞変異原性：	分類できない
発がん性：	分類できない
生殖毒性：	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：	区分2(中枢神経系, 血液系, 腎臓)
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：	分類できない
誤えん有害性：	分類できない

成分

アジ化ナトリウム

急性毒性（経口）：	区分2 LD50: 45 mg/kg[ラット]
急性毒性（経皮）：	区分1 LD50: 20 mg/kg[ウサギ]
急性毒性（吸入）：	区分に該当しない（分類対象外）（気体） 分類できない（蒸気） 分類できない（粉塵・ミスト） LC50: 0.037 mg/L[ラット]
皮膚腐食性／刺激性：	区分1 動物への影響：ウサギの皮膚に適用した試験の結果、適用4時間後に腐食性を示し、6匹中3匹が死亡したとの報告 (DFGOTvol. 20(2003))に基づき区分1とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	区分1 動物への影響：皮膚腐食性が区分1なので、眼も「区分1」とした。
呼吸器感作性：	分類できない 人への影響：データなし。
皮膚感作性：	分類できない 人への影響：データなし。
生殖細胞変異原性：	分類できない その他の変異原性 in vivo試験のデータがなく分類できない。

安全データシート

整理番号： 4630A

作成： 2010/11/30

改訂： 2025/5/30

製品名： **ダイヤカラー・C02**

発がん性：	区分に該当しない（区分外）
生殖毒性：	分類できない その他 ハムスターの皮下に埋め込まれた浸透ミニポンプから妊娠7～9日目にはばく露した結果、2/15匹が死亡、早期吸収の有意な増加、脳ヘルニアの発生が認められている（DFGOTvol. 20(2003)）が、併せて、証拠文書として不十分なため出生前の毒性評価には使用できないと述べられている（DFGOTvol. 20(2003)）。かつ、投与方法も特殊であることから「分類できない」とした。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：	区分1(心血管系, 肺, 中枢神経系, 全身毒性) 経口摂取による中毒事故で心臓の強い鼓動、気絶、心臓虚血を呈した5人の実験技術者の例(NTPTR. 389(1991))、10～20gを摂取後、精神状態の変化、顕著なアシドーシス、心拍数低下、心拍数低下、低血圧を招き死亡した化学者の例(NTPTR. 389(1991))、極めて少量摂取した場合でも頻脈、過換気、低血圧を示した実験技術者の例(HSDB(2009))などの症例報告がある一方、本物質の標的器官は心臓血管系であり、末梢血管の拡張を起し血圧低下を招くと記述されている(DFGOTvol. 20(2003))ことから、区分1(心血管系)とした。また、上述のヒトの事例ではさらに症状として、めまい、気絶、精神状態の変化、非心臓性の肺水腫、代謝性アシドーシスが見られ、また、本物質を数グラム摂取した自殺例(ACGIH(2001))の所見として、肺水腫と脳水腫の記載があることから区分1(肺、中枢神経系、全身毒性)とした。、動物試験では経口投与により、ラットで心拍数低下と全身痙攣(DFGOTvol. 20(2003))、ウサギで血圧低下と心臓障害(PATTY(5th. 2001))が記録されている。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）：	区分1(中枢神経系, 心血管系) 区分2(肺) ヒトのばく露に関しては重大な有害影響の発生を伝える報告は特に見当たらない。、ラットの13週間反復経口ばく露試験の最高用量(20mg/kg/day)で臨床症状として嗜眠、努力呼吸、死亡、組織学的病変として大脳と視床に壊死が観察された(NTPTR389(1991))。さらに、2年間反復経口ばく露試験では最高用量(10mg/kg/day)で生存率の低下が見られ、この低下は試験物質ばく露に起因する脳の壊死と心血管虚脱が原因である述べられている(NTPTR389(1991))ことから、区分1(中枢神経系、心血管系)とした。また、上記のラット13週間経口ばく露試験の20mg/kg/dayでは、肺のうっ血、出血と水腫も観察されているので区分2(肺)とした。
誤えん有害性：	分類できない 人への影響：データなし。
エチレングリコール	
急性毒性（経口）：	区分に該当しない（区分外） LD50: 4000～13400 mg/kg[ラット]
急性毒性（経皮）：	区分に該当しない（区分外） LD50: 2800 mg/kg[ラット], LD50: 9530～10612 mg/kg[ウサギ]
急性毒性（吸入）：	区分に該当しない（分類対象外）（気体） 分類できない（蒸気） 区分4（粉塵・ミスト） LC50: 2.7 mg/L[ラット]
皮膚腐食性／刺激性：	区分2 人への影響：ヒト103人に対するパッチテストにおいて、本物質の原液0.2 mLの適用により刺激性がみられた（SIDS（2009））ことから、区分2とした。、動物への影響：ウサギ、モルモットを用いた皮膚刺激性試験で軽度の皮膚刺激性がみられた（CICAD 45（2002）、初期リスク評価書（2007）、CEPA（2000））との報告がある。

安全データシート

整理番号： 4630A

作成： 2010/11/30

改訂： 2025/5/30

製品名： **ダイヤカラー・C02**

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：	区分2B 人への影響：ヒトの事故例として本物質（濃度不明）に眼にばく露された結果、結膜のうっ血、浮腫、光反射の遅延、重度の角膜炎がみられたが4週間後には回復したとの報告がある（DFGOT vol. 4 (1992)）が濃度等については詳細不明である。、動物への影響：ウサギに原液を適用した眼刺激性試験において、刺激性なしとの報告がある（SIDS (2009)）。また、液体や蒸気への1回あるいは短時間の眼へのばく露は、恒久的な角膜損傷を伴わない軽微な結膜刺激をウサギに引き起こす（CICAD 45 (2002)、初期リスク評価書 (2007)、CEPA (2000)）との報告がある。以上の結果から区分2Bとした。
呼吸器感作性：	分類できない 人への影響：データ不足のため分類できない。
皮膚感作性：	分類できない 人への影響：ヒトに対する報告が2件あり、本物質5%又は25%水溶液を11人に適用したところ、1人（レンズの切断作業で25%水溶液を扱い腕、胸、腹部に皮膚炎を発症した31歳女性、ニッケルアレルギーあり）に激しいアレルギー反応を示したが、他の10名にアレルギー反応はみられなかった（DFGOT vol. 4 (1992)）。また、本物質の1%及び5%水溶液を10人に適用したところ1人（4ヶ月間光学レンズの洗浄作業で25%水溶液を扱い、発疹がみられた17歳男性）にアレルギー反応はみられなかったが、本物質3%を含むエタノール溶液に対して軽度の刺激、紅斑、腫れがみられた。他の9人についてはアルコールに対する軽度の刺激以外の反応はみられなかった（DFGOT vol. 4 (1992)）。、動物への影響：モルモットを用いたマキシマイゼーション試験において、感作性はみられなかったとの報告がある（SIDS (2009)）。動物試験では陰性の結果があるものの、ヒトの事例でアレルギー反応の事例があることから、分類できないとした。
生殖細胞変異原性：	分類できない その他の変異原性 in vivoでは、ラットの優性致死試験、マウスの小核試験及び染色体異常試験でいずれも陰性（NITE初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第3巻 (2004)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2010)、CEPA (2000)）である。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞のマウスリンフォーマ試験、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験でいずれも陰性（NITE初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第3巻 (2004)、SIDS (2009)、ACGIH (7th, 2001)、ATSDR (2010)、CEPA (2000)）である。
発がん性：	分類できない ACGIH:A4

安全データシート

整理番号： 4630A

作成： 2010/11/30

改訂： 2025/5/30

製品名： ダイヤカラー・C02

生殖毒性：

分類できない

その他 ラットを用いた経口経路（混餌）での三世代生殖毒性試験においては生殖発生毒性に対する影響は認められなかったとの報告（ATSDR（2010）、NITE初期リスク評価書（2007）、環境省リスク評価第3巻（2004）、CICAD 45（2002））、マウスを用いた経口経路（飲水）での連続交配試験では、母動物毒性はないが極めて高用量（1,640 mg/kg bw/day）で、胎児への影響（出生児体重の減少、同腹児数及び生存児数のわずかな減少、発生数は不明であるが顔貌異常と、頭蓋骨、胸骨分節、肋骨、椎骨で骨格変化）がみられたとの報告がある（ATSDR（2010）、CICAD 45（2002））。ラットあるいはマウスを用いた経口経路（強制）での催奇形性試験において、母動物毒性のみられない高用量（1,000 mg/kg bw/day以上）において児動物への影響（胎児体重の減少、骨化遅延、骨格奇形）がみられている（ATSDR（2010）、NITE初期リスク評価書（2007）、環境省リスク評価第3巻（2004）、CICAD 45（2002））。以上のように、母動物毒性のみられない用量において主に骨格奇形を含む児動物への影響がみられたが極めて高用量であること、旧分類の根拠である作用機序がヒトに該当しないとの明確な証拠が得られなかったことから、分類できないとした。

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：

区分1(中枢神経系, 血液系, 腎臓)

区分3(気道刺激性, 麻酔作用)

経口影響は3段階、第一段階（摂取から0.5-12時間）：中枢神経系（中毒、嗜眠、痙攣、昏睡）及び代謝障害（アシドーシス、高カリウム血症、低カルシウム血症）、第二（12-24時間）：心臓及び肺（頻脈、高血圧、代償性過呼吸を伴う重度代謝性アシドーシス、低酸素症、鬱血性心不全、成人呼吸窮迫症候群）、第三（24-72時間）：腎毒性（シュウ酸カルシウム沈着、血尿、急性尿細管壊死、腎不全）である（SIDS（2009）、CEPA（2000）、環境省リスク評価第3巻（2004））。6-14日（以降）を第四とし、神経学的影響（顔面神経麻痺、不明瞭な発語、運動能力の喪失、視力障害を含む）を観察、脳神経損傷示唆の報告もある（NITE初期リスク評価書（2007）、ACGIH（7th, 2001）、DFGOT vol. 4（1992）、CEPA（2000））。経口致死量は、約0.4-1.3 g/kg bw（CEPA（2000））や1.6 g/kg bw（SIDS（2009）、NITE初期リスク評価書（2007）、ACGIH（7th, 2001））。吸入では、55ppmで1.5分後から喉及び上気道の痛み、79ppm以上は非常に激しい痛みで1分以上耐えられない（NITE初期リスク評価書（2007）、ACGIH（7th, 2001））との報告。、ラット、マウスで、投与量に相関した中枢神経抑制作用があり、多量経口では、昏睡、麻痺、運動失調を示し死に至る。頻脈、頻呼吸、気管支肺炎、肺浮腫、うつ血性心不全、代謝性アシドーシス、腎臓障害を伴う多渴症、多尿症、尿中シュウ酸カルシウム結晶析出の報告。病理組織学的にはシュウ酸カルシウム結晶沈着で腎尿細管上皮変性、間質性水腫、腎皮質の出血性壊死（NITE初期リスク評価書（2007）、SIDS（2009）、CEPA（2000）、ACGIH（7th, 2001））。影響はガイダンス値の区分範囲では認められない。以上の知見より、区分1（中枢神経系、血液系、腎臓）、区分3（気道刺激性、麻酔作用）とした。

製品名： ダイヤカラー・C02

特定標的臓器毒性（反復ばく露）： 分類できない
 ヒトでは、男性ボランティアに69 mg/m³までの濃度を毎日20-22時間、1ヶ月間吸入ばく露したが、全身影響はみられなかった（環境省リスク評価第3巻（2004）、SIDS（2009）、ATSDR（2010））。また、カナダ及びフィンランドにおける職業ばく露による報告では、本物質ばく露により懸念された腎臓への影響はみられなかった（SIDS（2009））。この他、反復ばく露であることが明らかなヒトでの本物質についての知見はない。、実験動物では、SIDS（2009）及びATSDR（2010）の記述より、腎臓が最も感受性の高い標的臓器であるとされており、SIDS（2009）で信頼性が最も高いと判断されたラットを用いた16週間、1年間又は2年間混餌投与試験において、いずれも腎臓に毒性病変（腎症、腎結石、尿結晶など）が雄に強く生じたが、その発現用量は区分2を遥かに超える用量（腎毒性を指標としたLOAELの最小値：300 mg/kg/day（雄ラット1年間混餌投与試験））であった（SIDS（2009））。一方、吸入経路では本物質の反復吸入ばく露試験自体は実施されていないが、SIDS（2009）による記述では、エチレングリコール類の毒性はSIDSがカテゴリー評価対象物質としたジエチレングリコール（DEG）、トリエチレングリコール（TEG）、PEG 200のラット吸入ばく露における影響濃度が1,000 mg/m³超であることから、概して低いと考えられると推定されている。以上より、カテゴリー物質の知見も含めて、本物質は実験動物では経口、吸入のいずれの経路でも反復ばく露による毒性は低いと考えられるが、ヒトにおける高濃度反復ばく露による影響の有無に関して十分な知見がなく、データ不足のため分類できないとした。

誤えん有害性： 分類できない
 人への影響：データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

製品

生態毒性	
急性毒性：	区分に該当しない（区分外）
慢性毒性：	区分に該当しない（区分外）
残留性・分解性：	情報なし
生体蓄積性：	情報なし
土壌中の移動性：	情報なし
オゾン層有害性：	分類できない
他の有害影響：	情報なし

製品名： ダイヤカラー・C02

成分

アジ化ナトリウム

生態毒性

急性毒性：	区分1
魚類：	データなし。
甲殻類：	データなし。
藻類：	96hrErC50： 0.348 mg/L[プセウドキルクネリエラ]
慢性毒性：	区分1
魚類：	データなし。
甲殻類：	データなし。
藻類：	データなし。
残留性・分解性：	急速分解性なし。
生体蓄積性：	低濃縮性
土壤中の移動性：	データなし。
オゾン層有害性：	分類できない

エチレングリコール

生態毒性

急性毒性：	区分に該当しない（区分外）
魚類：	96hrLC50：> 100 mg/L[メダカ]
甲殻類：	48hrEC50：> 1120 mg/L[オオミジンコ]
藻類：	72hrErC50：> 1000 mg/L[プセウドキルクネリエラ]
慢性毒性：	区分に該当しない（区分外）
魚類：	データなし。
甲殻類：	データなし。
藻類：	データなし。
残留性・分解性：	急速分解性あり。
生体蓄積性：	データなし。
土壤中の移動性：	データなし。
オゾン層有害性：	分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 本製品は、アジ化ナトリウムを含有している。アジ化ナトリウムは鉛や銅などの重金属と結合し、乾燥状態で衝撃により爆発する性質があるので、排水後は配水管に残留しないように十分量の水で洗い流す。

焼却、活性汚泥処理もしくは都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。その他、その施設・地域の廃棄規則に準じて廃棄する。廃棄の場合は排水基準を守る。

汚染容器及び包装： 大量の水で洗浄し、容器の種類に応じて処分する。
使用した汚染容器は感染性廃棄物の処理方法に従って処理する。

製品名： ダイヤカラー・C02

14. 輸送上の注意

国連勧告 国連分類： 国連勧告の定義上の危険物には該当しない。
国内規制： 規制なし
輸送の特定の安全対策及び条件： 品質を保持するために2℃～10℃に保つ。容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

15. 適用法令

化審法： (旧) 第3種監視化学物質(アジ化ナトリウム)、優先評価化学物質(エチレングリコール)、製造輸入量の届出を要しない物質
PRTR法(化管法)(2009年施行)： 非該当
PRTR法(化管法)(2023年施行)： 非該当
安衛法： 名称等を表示すべき危険物及び有害物(エチレングリコール)、名称等を通知すべき危険物及び有害物(エチレングリコール)
毒劇法： 非該当
消防法： 非該当
労働基準法： 疾病化学物質(アジ化ナトリウム)
海洋汚染防止法： 有害液体物質Y類物質(エチレングリコール)、有害液体物質Z類物質(エチレングリコール)
バーゼル法(特定有害廃棄物輸出入規制法)： 特定有害物質(エチレングリコール)
船舶安全法： 毒物類(アジ化ナトリウム)
航空法： 毒物類・毒物(アジ化ナトリウム)
港則法： 毒物類・毒物(アジ化ナトリウム)
外国為替及び外国貿易管理法： 輸出許可物質(全リスト)(アジ化ナトリウム, エチレングリコール)、輸出承認物質(全リスト)(エチレングリコール)、輸出許可物質(16. キャッチオール規制品目)(アジ化ナトリウム, エチレングリコール)、輸出承認物質(35の2. 特定有害廃棄物)(エチレングリコール)
物質登録情報
ENCS (JAPAN)： なし
TSCA (USA)： なし
REACH (EU)： なし
AICS (Australia)： なし
DSL (Canada)： なし
ECL (Korea)： なし
PICCS (Philippines)： なし
IECSC (China)： なし
ECN (Taiwan)： なし

製品名： ダイヤカラー・C02

16. その他の情報

参考文献： 【GHS分類方法】 JIS Z 7252 : 2019 「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
社内データ
NITE-CHRIP（製品評価技術基盤機構）
職場のあんぜんサイト（厚生労働省）
RTECS（化学物質毒性データ総覧）
国際化学物質安全性カード
3E Insight（日報化学品法規情報センター）
化学大事典（共立出版社）
14705の化学商品（化学工業日報社）

制約事項： 記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものですので、特別の取扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供を主目的とするものであって、保証するものではありません。